

佐々町 洪水・土砂災害ハザードマップ

あなたと、あなたの大切な家族を守るために



いざというときの連絡先
 佐々町役場 **0956-62-2101** 警察 **110** 消防 **119**

〈発行〉佐々町役場
 〒857-0392 長崎県北松浦郡佐々町本原免168番地2
 ☎0956-62-2101 (代表)

保存版
 令和4年7月製作

「佐々町総合ハザードマップ(平成31年3月製作)」の5ページ及び12ページに記載している避難情報が変更になりました。

令和元年6月から、避難情報等は、5段階の警戒レベルを用いて発令することになりました。水害や土砂災害の危険があるときには、町から警戒レベル3(高齢者等避難)、警戒レベル4(避難指示)を発令します。避難行動判定フローを参考に、平時からとるべき行動を考え、「私と家族の行動」の欄に入しましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報	私と家族の行動
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1	
警戒レベル4までに必ず避難!				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難	
2	気象状況悪化	自らの 避難行動を確認	大雨・洪水・高潮 注意報 (気象庁)	
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への 心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)	

※1 市町村が、災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベルは必ず発令されるものではありません。
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の方も必要に応じて普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

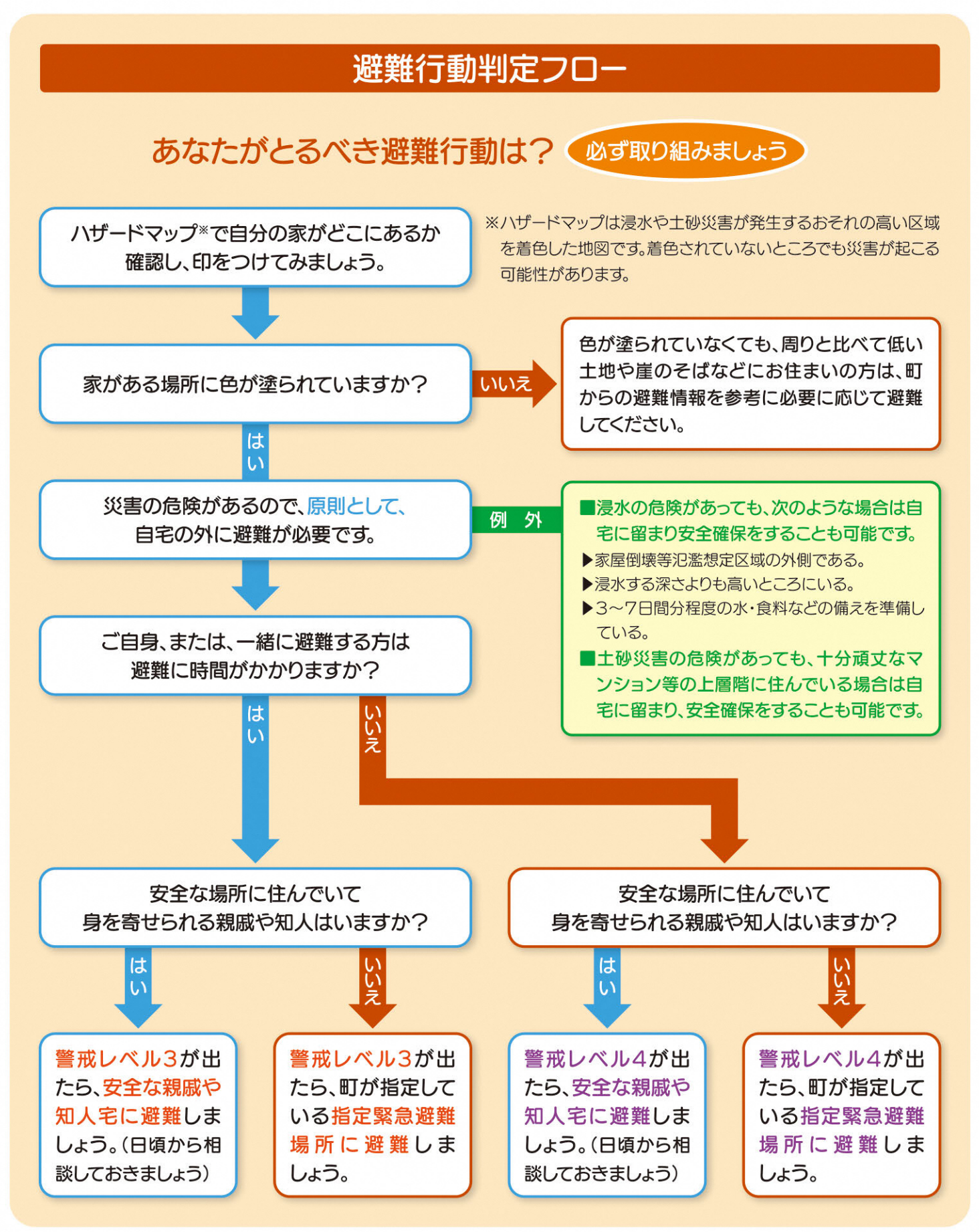
水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平移動)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難することも必要です。



避難行動判定フロー

台風や豪雨時にあわてず避難をするためには、日頃から、周囲の災害リスクを把握し、いつ、どのような避難行動をとるべきか、事前に考えておくことが大切です。台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。



避難の心得

いざというときに、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入力して、特に災害発生のおそれがある場所にいる人は、早めの避難を心がけましょう。



要配慮者への避難支援

要配慮者とは、災害発生時に避難の手助けが必要な方々のことです。一般に高齢者や障害者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人などが該当します。地域で協力しあいながら、要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。



避難情報の入手方法

災害が発生したり、発生するおそれがある場合に、町は避難に関する情報を発表します。日頃から情報の入手方法を確認しておきましょう。

インターネットによる情報入手

- 長崎県総合防災ポータル**
長崎県内の情報をまとめたウェブサイトです。
<https://www.pref.nagasaki.jp/sb/>
- 気象庁ホームページ**
気象情報を確認できます。
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- 佐々町ホームページ**
ホームページ上の緊急情報で防災情報が確認できます。
<https://www.sazacho-nagasaki.jp/>
- Yahoo!防災速報**
緊急地震速報や豪雨予報、避難情報などをお知らせします。
<https://emg.yahoo.co.jp>

メール等による情報入手

- 防災・行政情報配信メール**
緊急情報を事前登録された方にお知らせします。
① 携帯電話でQRコードを読み取り、
bousai.saza-townraiden2.ktaiwork.jpへ空メールを送信します。
② 本登録の案内メールが数分以内に届きます。
③ 案内に従って登録を行ってください。
④ 登録完了後、別途登録完了メールが届きます。
- 緊急速報メール(エリアメール)**
町内に滞在する人の携帯電話などに、自動的に緊急情報などを配信するサービスです。対応機種及び受信設定の方法は、それぞれの携帯電話会社のホームページでお確かめください。
- 佐々町公式LINE**

テレビによる情報の入手例

- NHK総合テレビ、NBC長崎放送を表示し、リモコンの「d(データ放送)」ボタンを押してください。
- リモコンの矢印で「防災・生活情報」に合わせ、「決定」ボタンを押してください。
- 佐々町(テレビに設定している郵便番号で判定)から情報が発信されている際は、「避難情報」「避難所開設情報」ボタンが赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。※案内のどこかの地域にも情報がある場合はボタンがグレーになります(選択できません)

災害用伝言サービス

地震や大雨などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されます。

災害用伝言ダイヤル 1717

電話を用いて安否情報(伝言)の録音・再生を行うことができます。

体験利用日
 ▶毎月1日と15日 ▶正月(1月1日~1月3日) ▶防災週間(8月30日~9月5日) ▶放送とボランティア週間(1月15日~1月21日)

伝言の録音は1をダイヤル → 被災地の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号をダイヤル → 伝言を入れる
 伝言の再生は2をダイヤル → 市外局番からダイヤル → 伝言を聞く

災害用伝言板(web171) <https://www.web171.jp/>
 スマートフォン・携帯電話・PC等から災害用伝言板(web171)にアクセスすることで、文字情報による安否情報(伝言)の登録・確認を行うことができます。

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言板サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページ等でご確認ください。

土砂災害の種類

土砂災害は、すさまじい破壊力を持つ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。土砂災害から身を守るために、ハザードマップで自分が住んでいる場所の周辺で土砂災害発生の可能性がある場所を確認しましょう。

急傾斜地の崩壊

- 雨で地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちる。
- 崩れ方も突然起こることが多く、スピードも速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人が多く死者の割合も高くなる。
- 地震が原因で起きることもある。

土石流

- 大量の土・石・砂などが集中豪雨などの大量の水と混じりあって、津波のように出でる。
- 流れの先端部に大きな石があることが多いため、破壊力も大きくスピードも速いため悲惨な被害を及ぼす。

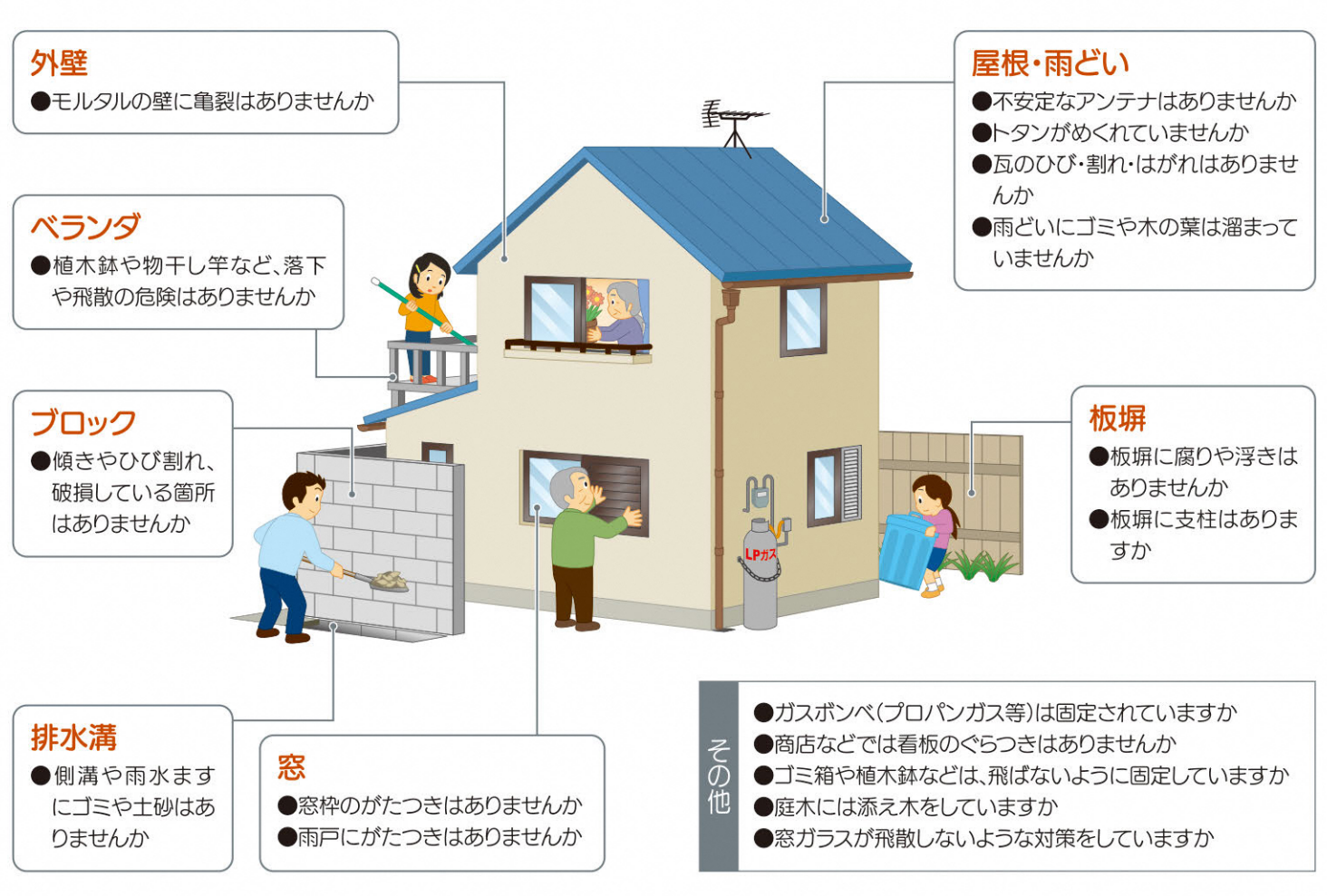
地すべり

- 粘土などのすべりやすい層を境に、その地面がそっくりズルズル動き出す。
- 地割れで田畑や家が壊されたり、押し出された土砂や地盤の移動のために、道路や建物幅広い範囲で被害を受ける。

土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域
土砂災害が発生するおそれがあり、発生した場合、住民に危害が生じるおそれがある区域。	土砂災害特別警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域。

風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周辺の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



家でできる簡易水防

浸水が10cm以下で浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な方法として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などをビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておくこと、より効果的です。

簡易水防工法例① プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。

簡易水防工法例② 簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせで出入口に設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方

家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

非常持ち出し品について

いざというときには、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。両手が自由に使えるようにリュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しましょう。

食品・水	救急医薬品	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 乾パン・レトルト食品・缶詰など 保存性のある食品類	<input type="checkbox"/> 救急医薬品 ●ばんそうこう ●薬薬 ●包帯 等 <input type="checkbox"/> 常備薬 ●かぜ薬 ●胃腸薬 ●解熱剤 等 <input type="checkbox"/> 衛生用品 ●マスク ●体温計 ●消毒液 ●石けん	<input type="checkbox"/> 現金(小銭) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 年金手帳 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 権利証券
応急活動用品	衣類など	その他
<input type="checkbox"/> ポリ袋(ビニール袋)・新聞紙 <input type="checkbox"/> ろうそく、ライター <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 予備の電池 <input type="checkbox"/> 筆記用具	<input type="checkbox"/> 衣類 ●洋服(厚手の物と薄い物) ●下着類 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手	<input type="checkbox"/> ヘルメット(防災ずきん) <input type="checkbox"/> 洗面用具 ●歯ブラシ ●石けん <input type="checkbox"/> ほ乳びん <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> 杖(長い棒) <input type="checkbox"/> 防災マップ

備蓄品

災害復旧までの3~7日間程度を自ら生活できるように準備しておきましょう。被害を受けにくく、非常時でも取り出しやすい場所に保管しておくことと良いでしょう。

食料	燃料・日用品など	
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 米(缶詰やレトルトのご飯なども便利) <input type="checkbox"/> 缶詰や菓子類 <input type="checkbox"/> 粉ミルク、乳剤食	<input type="checkbox"/> カセットコンロ <input type="checkbox"/> 予備のガスボンベ <input type="checkbox"/> 毛布または寝袋 <input type="checkbox"/> ブルーシート	<input type="checkbox"/> 割り箸 <input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ <input type="checkbox"/> キッチン用ラップ <input type="checkbox"/> 皿・バケ

「ローリングストック」を心がけよう

備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「ローリングストック」といいます。定期的古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。

